

2. 問題別討論会（6月22日）

①【テーマ】指導と評価の一体化～パフォーマンス評価を中心として～

15:10～17:10 第2室

コーディネータ：駒井 健吾（長野保健医療大学）

提 案 者：吉崎 理香（富山大学教育学部附属中学校）

飯島 悠一（富山県富山市立南部中学校）

田中 史恵（富山県滑川市小学校英語専科教員）

「指導と評価の一体化」に際しては、生徒理解と教室理解に応じて、指導と評価それぞれを互いに関連させながら微調整していくことが求められる。今回3名の方の実践を詳しく紹介することで、具体的事例に共通する参照項をフロアとともに探していきたい。

吉崎 理香：「口頭ペア型テストをやり取りの質の改善に活かす実践研究～振り返りの工夫を通して～」

本実践では、中学1年生対象のペア型口頭パフォーマンステスト（やり取り）を行い、生徒による振り返りをどのように行えば次のパフォーマンス（やり取り）が改善されるかを検証した。ペアでの振り返りの中の Language-Related Episodes(LREs)の分析と共に、振り返り前後のやり取りを会話分析を行って比較する。また実践の結果を受けて、次のパフォーマンス（やり取り）の質の改善のためにはどのような振り返りの方法が効果的か模索する過程も示していきたい。

飯島 悠一：「目標・指導・評価が一体となった授業を目指して」

本実践では、中学3年生対象で4人でのグループディスカッションにおいて合意の上結論を導くというタスクを設定し、ルーブリックと「feedback sheet」を生徒と共有することで指導と評価を一体的に進めた。目標と評価規準（基準）が指導に与えた影響とその過程を示し、学習課題や視点の提示、練習方法等について意見を交わしたい。また、中間評価の頻度、生徒への返し方についても試行錯誤の状況であり、様々な実践に触れて参考にしたい。

田中 史恵：子供の学びを支え・励ます指導と評価の在り方

本実践では、台湾の小学校との交流を年間計画に位置付け行った6年生の「話すこと[やり取り]」の実践例を取り上げる。子供が英語を使ったやり取りを楽しみ、自分の学びを見つめ、その手応え（成長/課題）を次へと生かすためには、どのようなコミュニケーションのための場面、目的、状況の設定が必要か、どのような学び合いの場、足場がけ、振り返りが効果的であったか、見えてきた課題について述べる。小学校でこそ大事にしたい力は何か、どんな子供の姿を目指すべきなのか、再度見直すきっかけにしたい。